

### 深まった？ 広がった？

(コリ二・一三、マタイ五・一三〜一六)

特番から深夜枠、そしてゴールデンに進出したテレ朝の出世魚的番組といえ「しくじり先生 俺みたいになるな！」である。著名人が自身の失敗をカミングアウトして生徒や視聴者たちに反省の材料を提供するといったもの。面白いのは当事者が失敗を語るといのは何かしらのカタルシス(浄化)を引き起こすようで、しくじり先生の方も何か楽しくなつてしゃべりすぎてしまうというところもあるらしい。ちなみに過去の出演者にはホリエモンやら杉村太蔵(元国会議員)さん、更には子育てに失敗した尾木ママに、経営に失敗した森永先生などもいるという。こうなるともう「さらけ出したもの勝ち」である。

閑話休題。他者の失敗に学ぶとは、

言い換えれば歴史に学ぶことであり、それは知恵あるものの道でもある。他者の反省をよく消化することにより、不要な失敗を体験しなくて済むとすればこれ以上に良いことはない。今朝は二〇一六年最後の礼拝であるが、今年の標語である「深まる教会、広がる教会」を再考することにより、適切な反省をする契機を提供したい。

### 一、深まったか？

年初の礼拝において私たちキリスト者は単にキリストに根差しただけでなく、そこから建て上げられていくべきことがコロ

サイ二・六、七のみことばにより示された。

パウロは「コリント二二章において、類似の真理をキリストの体という暗喩を用いて教えている。救われたとき信徒は聖霊の働きにより、キリストのからだに組み入れられる。これは概して不可視的であるが、すべてのキリスト者において起こる霊的な現実である。しかし話はそれでおしまいはない。個々人がキリストのからだに組み入れられたのは組み入れられた場所において、期待される役割を担うためである。目は目として、耳は耳として、口は口として役割を果たしていくことが大切になるのであり、そのように教会生活をしていくときに信仰は深められていくのである。イエスもまたぶどうの木と枝の比喩を用いて、信徒に対してご自身のうちにとどまり続けることを教えられている(ヨハネ一五章)。つまりすべての信徒にとつて信仰が深まつていくことは大切なことなのである。またその深まりもたらすのは賜物を活かした奉仕であり、またキリストとの関係を深める祈りやみことばに親しむことである。それをしていくならば、私たちは世の様々な誘惑に負けず、キリストを宝とし

て成長することができるのである。

### 二、広がったか？

ヨハネ八・一二においてイエスは自らを「世の光」と呼んだが、同時に彼に従う者も「いのちの光」を持つと語った。またイエスはマタイ五・一三において自身のことばに耳を傾ける者を「地の塩、世の光」と呼び、善い行いを通して社会に対してインパクトを与えるように命じておられる。つまり真にキリストに深く根差すならば、キリストのいのちの光がその個人の中に宿り、良き行いとなつてそれぞれの周りを照らすということである。今年九月に日本伝道会議があり、その一環として講師のクリストファー・ライト師が増補改訂した『今日におけるキリスト者の宣教』が立木信恵先生によつて翻訳されたが、そこには「縦軸の側面(伝道)を失ったキリスト教は塩気を失った塩であり役立たずであるが、人間の種々の社会的ニーズを見ないように敬虔を追求することは神の受肉と世に対する神の愛を否定することになる」という旨が書かれている。だから長く言われてきた「伝道か社会奉仕か」と言つた「あれか、これか」式の問い自体に問題がある。むしろ真理はこうである。イエス・キリストに真に深まり、根差していくならば、その人、あるいはその共同体は自

然にそのいのちの光を周囲に輝かせる存在になるのである。

\* \* \*

ウエールズのリバイバル運動の地、聖霊の喜びのあまりに飛び跳ねる人が続出したスランゲイソーという村に一人の男子が生まれた。早くしてロンドンに遊学し、医学生となり、二二の時には宮廷侍医の助手としての働きをはじめた。しかしそこで神の召しを受けた彼は、しばらくの格闘の後、召しに従つて牧師になった。故郷ウエールズでの十年の牧会の後、彼はロンドンの会衆派教会、ウエストミンスター・チャペルの牧師に招聘された。講解説教で高いキャンペル・モルガンの衣鉢を継いだのである。彼自身もまた大変優れた講解説教者であり、その説教は毎週筆録されて多くの人に読まれた。いつしか人は彼を二〇世紀最大の説教者と呼ぶようになった。ご存知マーティン・ロイドジョーンズである。しかしなほ素晴らしいのは彼の死後だ。彼が牧した教会は今もアクテイブ。化石化どころかウェブサイトは最新の情報であふれ、社会にインパクトを与えて続けている。キリストに根差し、広がっていくコミュニティには「いのち」がある。流れのほとりに植えられた木の如し、だ。更に深まり、広がる。